



東京多摩プロバスニュース

第 78 号

■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2018. 5. 9.

■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

ホームタウン多摩で楽しもう！

第 165 回 定例会

日 時 : 平成 30 年 3 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 23 名(会員数 27 名)

第 166 回 定例会

日 時 : 平成 30 年 4 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 22 名(会員数 26 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



出会いは可能性を秘めたドラマだ！

秋山正仁研修・親睦委員長

人が人生のうちに会える人数はどのくらいなのか。一説には 3 万～5 万、個人差があり定かではない。世界 73 億人の中で自らが交友を持つ確率を考えると、すべての出会いが奇跡であり、友人は運命の人といえないか。

近年 SNS の普及により電話で連絡を取り合う人は少なくなり、インターネットだけの付き合いが急増。コミュニケーションに大きな変化がみられる一方、必ずしも交友関係が拡大しているわけでもない。人間一人一人の顔や名前を認識して交友関係を結んでいるのは、平均して 150 人程度しかいないと言う学者もいる。



哲人曰く「すべては一人との出会いから始まる。一人を大切にすることが、万人への広がりに通じる」と語っている。良き出会いは、人生を変え生涯の宝となる。

東京多摩プロバスクラブに入会して 5 年経ちました。ここで一人の先輩の活動に感動しました。二年前の会報の「ごあいさつ」の中に、当時、研修・親睦委員長鈴木達夫さんが、13 年間毎朝ラジオ体操のリーダーとして「健幸づくり」に貢献している記事でした。

私も遅ればせながら、本年一月一日より決意し今日まで TV 体操を続けております。その効果は、鈴木さんの云う通り「肩こり、腰の痛みが和らいだ。足が丈夫になり早く歩けるようになった。食事が美味しくなった」等々有難うございます。毎日楽しく健幸長寿の毎日を過ごしております。



多摩市九頭竜公園でせいせき桜まつりの「せいせき鼓桜」の熱演

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

鈴木康弘幹事

1.1. 第15期に向けての移行スケジュールを提示

3月中に理事、監査役を決定し、4月上旬に全員の担当を決定した。

その後、数回の新旧合同理事会を開催し、第15期の活動計画を策定する。6月中旬には議案書を完成させ、7月の定期総会で配布する。

1.2. 東京八王子プロバスクラブの生涯学習サロン閉講式

2月に開講した学習サロンが5月10日に閉講式を迎え、当クラブから西村政見会長・鈴木泰弘幹事・登坂征一郎広報委員長・北村克彦会員の4名出席予定。

1.3. 青森五所川原プロバスクラブより創立10周年記念式典(4月7日開催)の案内を受けたが、行事などが重なり出席かなわず西村政見会長名の電報で祝意を表した。

1.4. 昨年12月より休会、病気療養中の平田哲郎会員(3月26日誕生日)を、澤雄二副会長夫妻が3月末に病氣見舞いで訪問、誕生祝と長年のプロバス活動に謝意を表し、奥様とペアの扇子をプレゼントした。

1.5. 平田哲郎氏は残念ながら薬石効なく、4月1日(日)に逝去された。享年93歳

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木達夫委員長

1) 第165回定例会

東京日本橋プロバスクラブ吉田誠男氏による交換卓話を「江戸日本橋の歴史」のテーマで実施。 関連記事下記参照

2) 第166回定例会

傘寿を迎える秋山正仁・神谷真一・小池博・登坂征一郎・中村昭夫各会員によるミニ卓話を「今、思うこと」のテーマで実施。 関連記事P3参照

3) 今後の卓話予定

第167回定例会(5月)は昼食付懇談会で新委員会毎。

当日は木曽路にて実施する予定。

第168回定例会(6月)はNHK「東京タイムカプセル」多摩市版を放映する予定。

3.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

1) 4月6日(木)バスツアーでのお花見会を予定していたが、温暖が続き例年より7~10日桜満開が早く中止した。

3.3. 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

1) 第13回出前授業そろばん教室の実施

例年通り2学期の始めに各8校に打診したが2校で開催

・3月6日(火)多摩市立聖ヶ丘小学校3学年1クラス

・3月8日(木)多摩市立多摩第二小学校3学年2クラス

・3月15日(木)同上3学年2クラス

関連記事P5参照

3.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1) プロバスニュース第78号の編集と発行配布

会員各位から寄稿頂き3月27日、4月23・27日の編集会議で最終校正校閲を実施、5月9日定例会で発行配布。

2) ホームページ更新公開を5月12日予定。

3) 会員各位のエッセイなどの寄稿を歓迎いたします。



広報委員会の皆さん

◇◇◇ 交換卓話 ◇◇◇

江戸日本橋の歴史

東京日本橋プロバスクラブ 吉田誠男氏

日本橋は徳川と三河と紅毛人(オランダ人)によって造られた。

徳川幕府入府以前の江戸は日比谷入江が食い込んだ江戸前島半島のような地形であった。太田道灌の築城した江戸城を本拠とした徳川家康がまず取り掛かったのは、江戸の街づくり(舟運による経済基盤の整備と、家臣や町人を住まわせる城下の整備)であった。当時、これらを推進したのは三河(浜松)から連れられてきた職人や商人の力だった。

舟運については今日の日本橋川の流れに相当する道三堀を開削、さらにその先の小名木川を開削することにより、日比谷入江を舟運の機能から切り離して、江戸城の面前に大型の船が出入りできないような地形にした。

これが役立ったのは、ペリー来航の折であった。



日比谷入江の埋め立てには江戸の高台、神田台地などの切り崩しによって行われた。そして江戸城周辺には家臣団を、道三堀をはさんで町人を住まわせる町並みができあがった。そこに架けられたのが日本橋である。また町内で発生するゴミなども埋め立てに使われたため社会として完全リサイクルが可能で、最終的には人口百万の当時世界最大のエコシティが出来上がった。

これからの街づくりにはオランダ流街づくりの知恵が入っている。

大きな船の入れない浅い入江、狭い川幅、橋の高さの制限、これらはアムステルダムやバタビア(ジャカルタ)の街づくりと似ており、人工地盤に松杭使用はヴェネチアやニューヨークマンハッタン島(オランダ人が最初に入植)などに現れている。

江戸幕府とオランダは鎖国の意識がなかった。またオランダの立場はカソリックから日本を守ることだった。オランダには東方貿易の独占権確保、金銀の独占購入権、軍港補給拠点確保など認め、江戸幕府としては欧州の文

物、情報入手を計っていた。従って、一種の同盟関係であったと言える。オランダは当時のキリシタン弾圧には手を貸しており、島原の乱(カソリック)には軍艦2隻が原城を艦砲射撃している。

なお、日本橋川に架かった日本橋は徳川幕府が整備した

五街道の起点とされているが、これは町人の呼び方で正式には江戸城起点が正しいのである。

(吉田誠男氏は伊庭仙=天正18年浜松で創業=の14代であり、当クラブ誕生祝いの素敵な扇子のお店)

(文責 総務委員会 小池博会員)

◇◇◇ ミニ卓話 ◇◇◇

高齢化が進んできておりますが、我がクラブでは健康年齢を凌駕し傘寿を迎えた5名の会員の方々に、どう自分でありたいのか?、どう人生を送りたいのか?「今、心の思い」を語っていただきました。

1. 秋山正仁会員

3月30日BS11chで多摩大学学長寺島実朗氏と山野美容学苑総長山野正義氏の対談を拝聴することができた。

2018年日本人口は1億2,652万人、65歳以上3,531万人30%、80歳以上は1,094万人8.6%となり、このことを老年学・高齢化社会学とのことです。このような時代に対して寺島氏は「知の再武装」①生命科学・人工知能 AIの進化②時代認識の深化③社会学/NPO マネジメント④思想哲学宗教の四つの重要性を訴えていた。

多摩市発行の本「生き方・老い方・応援」を参考にしつつ、本年9月に80歳になる老体に鞭打って楽しく実践しています。①健康チェック;4か月に一度血液検査②食事;新しい調理の研究・誰かを誘って食事③運動;毎朝TV体操・できるだけ歩く④活動;同級同窓会・県人会・法人会・従兄弟会、全ての会が長生きする会であるとの思いで参加する。良き出会いは、人生を変える生涯の宝となり、人との出会いで自分が大きく変わる。その上から自分のネットワークを大きくし、健康長寿の毎日を楽しんでいます。



2. 神谷真一会員

私は、昨年の6月に白内障で右目の手術を、12月にカテーテルでの検査と手術を受けました。両方とも軽く済みました。病院内では歩く場所が限られていまして運動不足がちで、通常でも足腰が弱っている時に、これらが重なり現在は自宅裏の多摩川散歩道で「急がず、無理をせず距離をのばして少しずつ歩く練習」に励んで体力増強に努めています。また、飲酒をセーブするなど健康第一で素晴らしい充実した日々を送ることにしています。



3. 小池博会員

私は「悪運が強い奴」と言われています。これは「アラブの春」という美名のもと発生したエジプトの騒乱の中無事に予定通り観光をして「のうのう」と帰ってきた私を指して会社の先輩がつけてくれた綽名です。



考えてみると幼年時代、終戦直前に中国から引き揚げられたのも悪運の強さですし、学生時代の浪人、病欠計2年

の遅れも結果として戦後の第一次大量採用の年に当たって、無試験で入社できたという悪運の強さがあり、会社生活の研究開発やクレーム処理でも悪運の強さとしか思えないギリギリの成功に恵まれました。

さて、80歳になって登坂征一郎・大澤亘両会員にさそわれて入会し、澤雄二会員の掌に載せられたプロバスクラブでこの悪運の強さは通用するのでしょうか?楽しみです。

4. 登坂征一郎会員

9月を迎えるとなんと80歳になる。ここ約15年間はプロバスの皆さんと楽しく来られたことは感慨も一入である。その中で、特に親交の厚かった岡野・稲田・平田さんのお三方が相次いで逝去され、惜しい方々を失ったこと、悔しさ・悲しさ・淋しさが込み上げてきます。



さて、80の声を聴くと今までとは全く違った感情、言葉では言えない何かを感じる。人生の峠を越えた何か?孫は「爺じ、よく生き延びたね」といみじくも言ってくれた。

歳月と心の去来除夜の鐘

奥風

幾山河越えて八十路の大旦

奥風

八十路を迎え、明治から昭和と激動の時代を乗り越えてきた父母・姉弟の恩愛に感謝の念を禁じ得ない。

何かせむ八十路の夢の初暦

奥風

残された4次元の隙間に、感謝の念をもってなし得ることはやらねばと……。

5. 中村昭夫会員

人が生きるには多くの人たちとの関係の中で生きていくことです。自分の楽しみを求めるのではなく、少しでも人のためにお役に立てるような奉仕活動をしていきたいと思い、たまたま男性カルテット「多摩ダンディーズ」を結成したので、高齢者施設での演奏を行い喜んでいただける活動をしています。また小中学生などの子供たちに対して自分の経験や考えを話して子供たちの成長への一助が出来ればとのことから、市内の小中学校やひじり館などで子供たちへのお話を続けています。奉仕活動を行うことによって喜んでいただけることは私自身の喜びでもあります。「こうとしか生きようのない人生である。せめて消えない轍を残そう」を座右の銘としてこれからも活動してゆきたいと思っています。



平田哲郎さんを偲ぶ

平成 30 年 4 月 1 日、93 歳の人生を閉じられました。

一世紀近い人生は、アメリカでの生活、太平洋戦争での辛いご体験など、波乱に富んでご苦勞の多いものであったことを伺いました。にも拘らずいつも冷静で穏やかに私たち後輩に接していただきました。

私が当クラブに入会するに当たって推薦人になって頂いて以来、素晴らしい人生の大先輩として尊敬し、学ばせていただきました。

卒寿を迎えられた時、次は 95 歳を目標に生きると言われ、毎朝散歩を続け、身体の管理にも気を使いながら、趣味の写真に没頭されるなどお元気なご様子でした。

数年前、御嶽山の紅葉を撮りに出かけられた時、まだ紅葉がそれほどでないとき下山されたことがありました。その直後、あの噴火があったのです。まさに危機一髪で難を逃れたのです。その判断と決断の素晴らしいは、単なる運の良さというより、全国くまなく足を運んだ経験と冷静なお気持ちの表れだと思います。

心から感謝の気持ちを込めてご冥福をお祈り致します。

白寿をば待たず黄泉路へ春の夢

岳人

以下、会員各位の偲ぶ言葉。(五十音順、敬称略)

秋山正仁；平成 18 年 5 月、九十九里浜への一泊研修旅行にご一緒いたしました。私より 13 歳も違う先輩の元気な姿を思い出します。ご冥福をお祈り申し上げます。

上田清；プロバスへ同時期に入会して以来、いろいろとご指導を賜りありがとうございました。誰もが通る道とは言え残念です。心からご冥福をお祈り申し上げます。

大澤亘；クラブの最長老として奥様共々温厚なお人柄で会員を暖かく見て下さいました。誰からも慕われ尊敬されていた方でした。事務局も長い間有難うございました。

神谷真一；平田さんは紳士で私のお手本となっていました。妻に平田さんを見習いなさいと言われていました。多摩川で花火大会があった時、我が家で一緒に飲んだビールの味を思い出します。カメラ用具一式を頂き、現在それを愛用しています。ご冥福をお祈りします。

倉賀野武士；瑠璃色の羽が輝く翡翠の写真を自室に飾ってある。平田さんが卒寿記念に、唐木田の菖蒲館で個展を開かれた際に頂いたもので、大切な遺品となった。

小西加葉子；平田さんの「海霧」の写真が好きでした。お洋服も写真もセンスのある方でした。今度の誕生祝の写真は私一人になってしまいました。今までは、平田さん、岡野さんと私。寂しいです。

澤雄二；平田さん「五輪は見に行くよ」と話されていまし

北村克彦会員



卒寿記念の写真展で
奥様とご一緒に

たね。残念です。柔和で公平で公正。素敵な平田さんは私の目標です。頑張ります。プロバスを見守って下さい。

鈴木達夫；会長に指名され、頼りない私に副会長の平田さんが、皆さんに飲ばれる定例会である様に毎回指導され感謝します。姿勢が良くダンディーな方でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

鈴木泰弘；プロバスクラブを創り、写真を趣味とし、社内結婚の奥様を愛した大先輩。羨ましいご人生です。故郷瀬戸内海での「海霧を衝いて出航する漁船」には…

滝川益男；プロバスに惚れ、プロバスを道連れに逝った平田さん。全日本プロバスや近隣クラブとの交流をはじめ、数々の業績は 15 年の会誌に燦然。貴方の志は必ず継承してまいります。

滝川道子；訃報に接し、悲しみが胸いっぱいになり、いつも落ち着いていらして惻隱の情をお持ちの平田さん、沢山の心遣いを有難うございました。

登坂征一郎；7 年前「真田六文銭を訪ねて」と晩秋の信濃をドライブ、黒姫等北信をほぼ一周。平田さんのカメラへの情熱と同乗者への気配りに感激と感謝。忘れられません。
永田宗義；プロ級写真家の平田様に写真展へご来訪下さり色々アドバイスを頂いたことや広報では温かなご指導で楽しく活動できたことに感謝！ご冥福をお祈りします。

中村昭夫；平田さんは、幼年時代の苦悩はすべて心に締まって、人に対しては寛容で柔和な心をもって接しられ、平田さんから数多くのことを学ぶことができました。

西村政晃；平田さんにお話を伺っていた時、広島麻の繊維の会社で私の伯父と一緒にいた由、世間は狭いことを痛感しました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

阪東照子；生天された平田さん、三つ年上のお兄様とお慕いしておりました。夫唱婦随豊かな人生。今はみ空から思い出の被写体を求め、早朝深夜を問わず旅なさいませ。

藤寄喬子；ジェントルな佇まいと常に謙虚なお人柄は、誰もが目標とする大きな存在でした。激動の時代を生き抜いた静かな眼差しが切り取るアングルが好きでした。

古澤靖雄；平田さんが新会長になられた時、平田流の一本釣りで幹事を仰せつかり、一年間ご指導して頂き、良き時を過ごさせていただいたことを思い出します。有難うございました。

増山敏夫；往年の名優、ハンフリー・ボガードを思わせる風貌と当ニュースに書いた折、大きなチーズを頂いた事が。ダンディーな平田さんが忘れられません。

山田正司；広島出身、戦争体験、趣味の話など共通話題にもっと花を咲かせたかったです。何事にも前向きで真にやさしい平田さんに畏敬と感謝。合掌。

1. そろばん出前授業

古澤靖雄会員

今年度で 13 回目となる「そろばん出前授業」が何事もなく終了した。

この時期になると暑さ寒さ関係なく何と無く体が引き締まってくる心境を、13 年間体験し元気を貰ってきた。今年度は、残念ながら 2 校（多摩第二小、聖ヶ丘小）、3 クラス、118 名の元気でやんちゃな子ども達であった。2～3 年前からの傾向と感じていたが町の“そろばん塾”に通っている子が今年も多く見受けられた。その影響かそろばんの理解度が生徒間で気になるほど生じ、授業態度にも変化が起きた。学校からの希望で多摩第二小の 2 クラスは 1 時限づつの授業にした。授業態度は落ち着いていた（子供達の集中度も 1 時限程か？）。教える側とすると中途半端な区切りであった。

教育改革で教科科目に採用された英語、道徳を学校側として、年間の総教科時限 1200 時限の中で、どの様に遣り繰りするか混乱していることも事実である。その余波が“そろばん授業”に押し寄せないでほしいと願うところである。

「ご破算で、願ひましては～～」の「そろばん出前授業」は今年度で終了させていただきたく思っております。この「そろばん出前授業」は、13 年前に「井戸を掘っていただいた」蓮池、新倉両先輩（教育界ご出身の方）の、ご尽力の賜物と衷心より厚くお礼を申し上げます。又当クラブ会員の皆様からのご支援があったらこそ、当クラブの実績となり、1 ページを書き残すことが出来ました。衷心より厚くお礼を申し上げます。

2. 俳句会句集創刊について

増山敏夫会員

俳句会の句集第 1 号が発刊のはこびになりました。12 名の会員の 1 年間の作品集です。うち岡野流馬さんが句集準備中の昨年 11 月急逝され、急遽流馬さん追悼句を加えました。サークル活動として俳句の会が産声をあげ約 10 年、月 1 回の句会には投句、選句、披露、鑑賞の流れにもすっかり慣れ、ようやく人に読んでもらえる句が並べられるようになりました。ボケ防止、俳句を通じての交流など、楽しく頑張っています。ちなみに昨夏には、八王子プロバスクラブ俳句同好会との交流吟行会が高尾山薬王院で行われました。



3. 近隣 3PC ゴルフ大会

北村克彦会員

4 月 20 日（金）、多摩 PC の幹事により 3PC の合同コンペが、好天に恵まれた GMG 八王子ゴルフ場で 1 年ぶりに開催された。16 名（八王子 6、日野 7、多摩 3 の参加。1、2 位は八王子、3 位は多摩の川久保さん（俳句会）であった。

多摩の山々を眺めながら親交を深めることができた。

4. 地域福祉功労者の表彰

小西加葉子会員

平成 29 年度の福祉大会に、傾聴グループ「福寿草」の活動を永くやっている為か、表彰するという案内状が届いた。福祉活動は、自分のポリシーで、子育てが終わった頃からやっているの、人間として当たり前の事と思っている。今までにも何回も話はあったが、表彰とか褒美とかはあまり私の意とするところではない。しかし、今回は傾聴の発足時から一緒に仲間が出席すると申し出たので参加してみた。

傾聴グループは、12 年前にボランティアグループとして立ち上げた。その後、講習会を開催するごとに会員が増えた。

「聞く」と「聴く」の違いは、音とか言葉が聞こえてくるのが「聞く」で、耳・目・心・自分の五感をフルに使って「きく」のが「聴く」なのです。

いつかプロバスでも、休会や退会された方へ行って、傾聴のボランティアをさせていただきたいと思っています。



平成 29 年度 福祉大会功労者表彰式

小西会員は前列左から二人目

5. からまつ春の合同句会

倉賀野武士会員

からまつ春の合同句会が、3 月 31 日（日）に国立駅近くの「コミュニティスペース旭通り」で開催された。石川春兎主宰、由利雪二名誉主宰をはじめ 30 名が参加し、俳句会からも蓮池同人会会長、登坂同人副会長、増山俳句会代表、北村会員、倉賀野会員の計 5 名が参加した。

今回は、俳句会として登坂会員の総指揮のもとに会場設営、司会進行、披露の一部を担当し、従来以上に多くの役割を分担した。

集まった 60 句の中から一人 3 句（役員 5 句）を選び、採点を集計して入賞者を決定した。俳句会からは、登坂会員が上位に入賞したほか、それぞれが健闘した。賞品授与、先生方の選句講評後の懇親会にも全員参加した。

からまつ誌上の作品でしか知らなかった人たちと杯を交わし、俳句談議に花が咲いた。有意義な春の一日であった。



由利雪二名誉主宰を囲んで

前略 あなたへ

「いい天気だなあ」― 感嘆の声に、私たちは(長男、次男、私)あなたの目線の先を見上げたわ。玄関を出た正面の原峰公園の上空は、雲ひとつない輝く青空だったわね。

昨年(2019)の正月4日、ケアマネさんに点滴受診を予約して頂き、ゆっくりとそれでも急いでいた私たち。乗り慣れた車、あなたの指定席である後部シートに横たわりながら「せつかくの休みなの(に)わるいなあ」― と気遣うあなた。

車で5分。受付に走る私の背に「お母さんストレッチャーと人手を!!」と息子の声。初療室へ駆け込んでからほどなく、呼ばれたその部屋には目を閉じ横たわるあなた。傍らにはAEDが。「11時11分、ご臨終です」

介護の本番、いわゆる終末期医療を覚悟していたのに「もういいの?」。あまりにも突然で涙も出やしない。頼もしい二人の息子に守られ、ドライブ気分の中で逝ってしまったという感じでしたよ。

…今日は死ぬのにもってこいの日だ。すべての美が私の目の中で休もうとやって来た…インディアンに口承されるという詩と、原峰上空のあの真っ青な空が頭の中を駆け巡る病院からの帰路でした。

前日のこの時間は、恒例の新年会。佳音の成人祝いも兼ねて大人9人孫7人、総勢16人で記念写真を撮っていた頃よね。フィルムカメラが欲しいとアルバイト代を貯めている事を知って、ニコンF3をあげたのね。使い方を嬉々として説明しているあなたと佳音の真剣な顔。

藤寄喬子会員



冗談の生前贈与が本当になってしまった。これからもカメラ談義をしたくて点滴を思い付いたのかな。身体は病に侵されていたけど心は健康、明朗なあなたでした。

釣りやゴルフそして旅行仲間の元同僚の方達がたくさん来てくれましたよ。約束通りの家族葬の後、後学の為に一連の諸手続きをやったけど名義変更は大変でした。この経験を活かしLife Memorial Noteをゲットしました。プロバス先輩のお陰です。あなたから頂いた時間を大切に、創大通教生で頑張るからね。かしこ

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

3月誕生日を迎えられました!

4月誕生日を迎えられました!



小西加葉子会員



左から大澤亘・神谷真一・澤雄二各会員

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

この半年に3人の会員の方々がご逝去されました。当クラブに大きな力を注いでくださった会員でした。会員からの「故人を偲ぶ言葉」により、故人のそれぞれの方が残された足跡を偲ぶことができました。

今号の特集でも平田さんのご逝去にともなう会員の「故人を偲ぶ言葉」により、平田さんが残してくれた会員への心配りが多く寄せられました。人が生きるということは大きな足跡を残していくものだと痛感しました。

傘寿を迎えられた会員からの投稿では、これからは更に豊かな人生を歩みたいとの熱意を感じることができました。

これからの当クラブについてどのような活動を行ったらよいか、多くの会員のご意見を基に皆で考えて、クラブソングでも毎回の例会で斉唱するように、「社会奉仕に力を注ぐ」「次の世代の若人の教え導く糧となる」を実現するために、プロバスクラブの原点である「世のため人のため」に、活動するようにしてゆきたいと思います。これらを実現するために多くの会員からの投稿を期待して、内容豊かなニュースにしてゆきたいものです。

(広報委員 中村昭夫会員記)

◇◇東京多摩プロバスソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ